

暮らし ニア

夕映えのとき

人生90年時代

春日キスヨ

<4>

三浦雄一郎さんの快挙は日本中の耳目を集めた。そのニュースに多くの人が感動する。80歳で

エベレスト登頂なんて、すごいねえ、と。

私たちが感動するのはなぜだろう。三浦さんの快挙が、並の人生を生きる私たちには手が届かない、特別な人だけに許された特別な偉業だからだろうか。もちろん、それもあるだろう。しかし、

それ以上に、三浦さんの生き方が、平凡に生きる私たちの人生の何かと響き合うからではないだろうか。

三浦さんにも、退職後の多くの高齢者同様「もうやることはない」「僕

80歳でエベレスト

目標持ち歩む私たちも



絵・トウフクロ

と、立てた目標が「70歳でのエベレスト登頂」だという。

「無理はしない。でも、無理をしなければならぬ」と答えた。

ところが、ブラブラする生活はその限界さえ曖昧化させ、あるはずの力をも退化させていく。その生き方に決別を告げ、目標を持つ生活に切り替えていった三浦さんの生き方が、私たちを感動させるのではないだろうか。

の人生、これでいいんじゃないか」と「リタイア気分です。フラフラする生活」の時期があったという。

53歳で7大陸最高峰からのスキー滑降を成し遂げた後、65歳を迎える頃

「無理はしない。でも、無理をしなければならぬ」と答えた。

私たちに目標を持つ生活は不可能か。そんなことはない。この欄の読者から「私はベッド生活十数年。リハビリでちぎり絵の一字一字に命を込め、俳句や和歌に添えたりしています」という便りももらった。「目標を持つ生き方」がここにもあると思う。
(臨床社会学者 廿日市)

マル マニ 結ぶプロジェクト